

学校名	大田区立御園中学校分教室 みらい学園中等部	世田谷区立世田谷中学校分教室 ねいろ
開校日	令和4年4月開校	令和4年4月開校
入室対象生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>大田区立中学校に在籍している生徒。</li> <li>心理的に不安の傾向等があり、継続または継続して30日以上欠席している生徒。</li> <li>「分教室入室検討委員会」が入室することを認めた生徒。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世田谷区に在住している生徒。</li> <li>不登校（継続または継続して30日以上欠席している生徒）の生徒。</li> <li>「世田谷区不登校特例校分教室入室検討委員会」が入室することを認めた生徒。</li> </ul>
生徒数	23名（令和5年5月現在）	39名（令和5年4月1日現在）
教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>正規教員3名。ほか、区費で講師、養護教諭、スクールカウンセラーを配置。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正規教員4名。その他、区費で講師、養護教諭、スクールカウンセラーを配置。</li> </ul>
入室の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校支援窓口申し込み後、<u>見学、体験（約1ヶ月）</u>を経て正式申請。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校支援窓口申し込み後、<u>見学、体験（約1ヶ月）</u>を経て正式申請</li> </ul>
教育課程（ ）は標準時間	980時間（1,015時間）	910時間（1,015時間）
学びの多様化学校の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>在籍校の復帰を目的としておらず、分教室で卒業。</u></li> <li><u>教育支援センター</u>は居場所としての位置づけであり、<u>在籍校の復帰を目的としている。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在籍校に行けないが、学校に行って勉強したい、友達と一緒に活動したいと思う子どもたちのための学校</li> </ul>
登校してからの流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>午前9時までに登校。</u>遠方から登校する生徒、他の中学生と登校が重ならないよう配慮。</li> <li>時間割は<u>午前3時間、午後2時間。</u>授業は、基本的に<u>本校の授業進度・内容と変わらない。</u></li> <li><u>5時間目終了後、個別学習をタブレットを用い実施（国・数・英）。</u>学び直しの時間を実施。小学校の教科書も完備。</li> <li><u>下校は午後3時35分。</u>部活動はない。本校の部活動に参加することは可能だが参加している生徒はいない。放課後、それぞれ時間を過ごす。学習する生徒もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>午前9時までに登校。</u></li> <li>ウォームアップ時間にその日の予定を確認し、目標を決定。</li> <li>朝体育後、<u>午前3時間。</u>学年ごとに<u>国語・社会・数学・理科・外国語の授業を実施。</u></li> <li>午後2時間。学年を超えた授業を実施。美術や技術などの「<u>表現</u>」、お楽しみ会や行事企画等を行う「<u>体験</u>」、自分の興味関心のある分野、生き方について考えを深める「<u>探究</u>」の時間がある。</li> <li><u>下校は午後3時40分。</u>放課後、<u>学び直しや復習に取り組むリ・ラーニングの時間を設定（15:40～16:40）。</u></li> </ul>
その他特筆すべき内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度から「<u>プレみらい</u>」という転入学支援スペースを3Fに設置。入室希望生徒や保護者の意見をしっかりと聞き、個に応じた体験入室計画をオーダーメイドで組み立てる。</li> </ul> <p>&lt;通室生徒の声&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>少人数だから丁寧に学習を見てもらえる。</li> <li>同じ境遇の仲間だから、気持ちを理解してもらえる。</li> <li>教員室がガラス張りですぐ声をかけやすい。</li> <li>全ての先生が私たちの先生だから安心。</li> <li>リモートを活用するなど相談体制が充実している。</li> <li>オンライン配信で教室の様子が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育祭、修学旅行等の学校行事は基本的に本校生徒と実施。しかし、修学旅行については、別々に実施したいという生徒の要望があり、令和5年度は別々に実施予定。</li> <li>正規教員の他、会計年度任用職員として、教員OB（元校長や副校長）を雇用し、教室運営を管理職の経験を踏まえ、サポート。</li> </ul>

〈参考となる考えや要素〉

- ・生徒にとってそれぞれの分教室が自分の居場所として確立されており、随所に子どもの声が届きやすい、風通しの良い環境作りが徹底されている点。
- ・「生徒の声」を掲示したり、実現できそうな事柄について可能性を探るなど、生徒と教員が協働して分教室を創り上げる校風。
- ・養護教諭やスクールカウンセラーを配置（週4日ほど）し、生徒が相談しやすい環境が整備されている点。
- ・分教室は、本校の下位ではなく並列的な位置づけとしていることで「分教室=ネガティブなもの・不登校で学校に行けなくなった生徒が行く場所」ではないと明確に位置づけている点。

〈検討すべき点〉

- ・学びの多様化学校の位置づけを「本校には通えないが、勉強をしたいと思う子どもが通うための場所と限定している点。
- ・地域の中で生徒が安心し、生活できるような学校となるような位置づけ。
- ・市町村へ「学びの多様化学校」設置を想定した際、設置にかかる県から市町村への人材面、財政面の支援の検討。